

大規模災害に備えて — 表紙よりつづく —

さて、身体の重い人の運び方について。これは以前にえんの職員研修で消防署の方から教えていただいたものをそのまま皆さんにお伝えしました。方法は3つあり、1つ目は、物を使わずに2人で1人を抱える方法、2つ目は、毛布を使用して4人で持ち上げる方法、そして3つ目は、毛布と物干し竿を使用して簡易担架を作り2人で運ぶ方法です。えんの職員が実際にデモンストレーションを行い、その後に参加者の方々にも体験していただきました。参加者から「本当に重い人でも大丈夫なの？」と質問があり、えんの大柄な男性職員を持ち上げてみましたが、それほど負担を感じずに持ち上げることが出来ました。体験した方々より、「意外と簡単に持ち上げることが出来た」、「(毛布の上に横になってみて)怖さはあまり感じず、むしろ気持ち良かった」等の感想をいただきました。

次に、災害非常時用マンホールトイレの設置方法についてです。このトイレは、屋外にあるマンホールの蓋を開け、その上に設置することで使用可能になります。新座市では避難場所に指定されている公民館や学校などに保管されているそうです。マンホールにもいくつか種類があり、今回は「汚水」バージョンのトイレでした。設置は、大人2人で行い、7～15分程度。マンホールの蓋を開ける、トイレを組み立てる、周りに目隠しのテントを張る、という流れでトイレの設置が完了します。設置方法について新座市役所危機管理課の方々より教えていただきました。トイレの周りには専用のテントが張られ、前面の小窓に「使用中」の札を掲げることも出来ます。参加者より、「おお～！」という感嘆の声が！実際に使用する際は、あらかじめバケツ等に水を溜めておき、用を足す度にその水で汚物を流します。非常時にトイレが使用出来るだけで安心感がぐんと高まります。

多発する自然災害を機に、もっともっと災害に備えていきたいです。

(ケアサポートえん・多機能ホームまどか／遠野瑞穂)

